

プロジェクトで発生するリスクの MBTI を用いた事前予測

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442085 中村 真悟

1. 背景

アメリカには MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) という自己理解メソッドがある。MBTI とはカール・グスタフ・ユングの心理学的類型論の指標(内向:I-外向:E, 感覚:S-直感:N, 思考:T-感情:F)に判断的態度:J-知覚的態度:Pの指標を加えて、4指標16タイプとして性格を分類する。主に相談場面や教育現場、企業の組織編制、人事政策などに使用されている[1]。

このMBTIを使い、プロジェクトの開始時点からメンバの性格を理解し、メンバの相互作用が原因となって起こる事象を予測したい。MBTIの性質上、理想のタイプに近づくこともできる。現状を把握し、理想のプロジェクトメンバの関係を目指すこともできる。以上のことから本研究ではMBTIを用いて、グループワークでの事象とメンバの性格との相関関係について研究する。

2. 目的

本研究の目的は、グループメンバのMBTIの16タイプの相互作用がプロジェクトにどのような影響をもたらしているのかを調べ、MBTIのタイプからメンバ間で発生しやすいリスクを予測することである。

3. 手法

以下の手法で研究する。

- 課題研究で得た結果から仮説を立てる
- 講義受講者にMBTIの性格検査[2]を行う
- タイプに基づき、数人のグループを作り、グループワークを行ってもらおう
- グループワークでは普段通り課題に取り組んでもらう
- 課題提出時に失敗マンドラ[3]に基づいた事象についてのアンケートを行う
- メンバの性格とアンケートの結果から、タイプと事象についての仮説を実証する

4. 想定される成果物

想定される成果物はプロジェクト開始時から使用できるMBTIを用いたメンバ間のリスク予測表である。

5. 進捗状況

プログラミング言語とプログラミングの講義にてグループワークから、いくつかのグループの性格検査と事象のアンケートのデータを取ることが出来た。

現在、データマイニング指導教員である矢吹太朗准教授にグループ分けの方法、講義で実際に行うグループワークの提案をし、手法と課題について話し合っている。グループ分けに関しては前回の講義を踏まえ実験計画法に基づき思索している。

6. 今後の計画

データマイニング入門でグループワークを行い、MBTIの性格検査と事象のアンケートを実施する。PM実験でも同様に性格検査とアンケートを実施する。

参考文献

- [1] 清中澤, 純一郎田淵. 24 mbti に関する研究 (1): MbtI の概略について. 日本性格心理学会大会発表論文集, No. 6, p. 52, dec 1997.
- [2] Otto Kroeger. データ分析教育へのアクティブラーニング手法の導入提案と実践. 飛鳥新社, aug 1994.
- [3] 正彦亀倉. 失敗マンドラを活用したアクティブラーニング授業の失敗事例分析とその知識化-学生の「やる気」を引き出す観点から-. *NUCB journal of economics and information science*, Vol. 59, No. 2, pp. 123-143, mar 2015.
- [4] 友佳杉浦. 1-5 レスキュー・マネージメントのためのストラテジック・チーム・ビルディング論. プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集, Vol. 2001, pp. 20-25, mar 2001.